



## 2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2021年1月29日

上場会社名 株式会社木曽路

上場取引所 東名

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 吉江 源之

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 戸谷 明宏

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 2021年2月5日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	23,520	28.6	3,480		3,090		4,974	
2020年3月期第3四半期	32,925	1.0	869	25.5	910	20.5	471	37.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	194.81	
2020年3月期第3四半期	18.45	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	43,565	23,983	55.1
2020年3月期	38,160	29,210	76.5

(参考)自己資本 2021年3月期第3四半期 23,983百万円 2020年3月期 29,210百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		15.00		15.00	30.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				15.00	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,800	29.9	4,540		3,890		5,730		224.42

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 有

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注) 詳細は、[添付資料] P.7「(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期3Q	25,913,889 株	2020年3月期	25,913,889 株
2021年3月期3Q	381,128 株	2020年3月期	380,868 株
2021年3月期3Q	25,532,926 株	2020年3月期3Q	25,533,470 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、[添付資料] 4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) .....	7
(追加情報) .....	8
3. その他 .....	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第3四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
2021年3月期	23,520	△3,480	△3,090	△4,974	△194.81
2020年3月期	32,925	869	910	471	18.45
増減率(%)	△28.6	-	-	-	-

当第3四半期累計期間(2020年4月1日～2020年12月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大による訪日客の入国・行動制限や、国内における消費活動が一気に冷え込んだ結果、景気は急速に悪化し、経済の先行きも不透明な状況にあります。

外食業界におきましては、緊急事態宣言の発令により全国に外出自粛要請の要請等がなされた結果、臨時休業や営業時間の短縮等を余儀なくされ多大な影響を受けました。また、大都市圏では、自治体より12月18日から飲食業への営業時間の時短要請を受けており、厳しい状態が続いております。

当社におきましても、臨時休業や営業時間短縮等により売上高は激減しましたが新型コロナ感染症対策を実施しながら「うなぎフェア」・「北海道祭り」等のイベントの開催や、持ち帰り弁当やしゃぶしゃぶセット等の販売を新たに開始しました。

費用面においては、店舗休業や売上状況に合わせた労働時間の管理等により人件費を抑えると共に、日常経費の管理と保守契約等の一時的な見直し、家賃の減額交渉や新規投資の抑制等により費用を徹底して抑えました。

資金面では安定経営の維持、手元流動性の確保のため取引金融機関からの借入(135億円)を実行いたしました。

また、当社は11月に株式会社大将軍の株式を取得し、子会社化するための株式譲渡契約書を締結することを決議し、木曾路グループに迎え入れることとしました。今後は両社の双方の強みを存分に生かすことで、付加価値の高い商品・サービスを提供してまいります。

店舗展開、改築・改装につきましては、4店舗の新規出店、3店舗の業態転換、2店舗の改装、11店舗の退店を実施し、当第3四半期会計期間末の店舗数は166店舗(前年同期末比8店舗減少)となりました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は235億20百万円(前年同期比28.6%減少)、営業損益は34億80百万円の損失(前年同期実績8億69百万円の利益)、経常損益は30億90百万円の損失(同9億10百万円の利益)、四半期純損益は49億74百万円の損失(同4億71百万円の利益)を計上しました。

(部門別の概況)

部門別売上高

	前第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曾路	27,697	20,952	△24.4
居酒屋	2,529	770	△69.5
じゃんじゃん亭	1,898	1,369	△27.9
鈴のれん	726	347	△52.3
その他	73	80	9.8
計	32,925	23,520	△28.6

### 木曽路部門

しゃぶしゃぶと日本料理の「木曽路」部門は、4店舗の新規出店、4店舗の退店、2店舗の改装、1店舗の業態転換により、当第3四半期会計期間末店舗数は123店舗(前年同期末比1店舗増加)となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4月16日から76店舗の休業を実施いたしました。その後、一時は売上高回復の兆しが見えましたが、12月18日から再度、大都市圏を中心に時短営業を余儀なくされました。その結果、年末の法人の宴会需要が激減する等厳しい状況が続いております。

このような環境の中で店内飲食営業の回復に向けた施策や新規顧客の獲得、来店動機づくりにTVCMを引き続き実施するとともに、お持ち帰りお弁当販売やご自宅でお楽しみいただける「しゃぶしゃぶセット」等の販売で客数増に努めました。

その結果、売上高は209億52百万円(前年同期比24.4%減少)となりました。

### 居酒屋部門

居酒屋部門は、5店舗の退店、2店舗の業態転換により、当第3四半期会計期間末店舗数は19店舗(前年同期末比6店舗減少)となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4月16日から全店舗の休業を実施いたしました。6月1日から全店舗を再開し、お弁当販売等を実施したものの、年末のからの緊急事態宣言による時短営業や法人需要の急減や休業が大きく影響し、売上高は7億70百万円(同69.5%減少)となりました。

### じゃんじゃん亭部門

焼肉部門の「じゃんじゃん亭」部門は、12月よりからあげ専門店の「からしげ」部門、天井の「てんや」部門を統合しました。当第3四半期会計期間末店舗数は19店舗(前年同期末比1店舗減少)となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4月16日から9店舗の休業を実施いたしました。前事業年度に1店舗の出店があったものの、臨時休業や時短営業が大きく影響し、売上高は13億69百万円(同27.9%減少)となりました。

### 鈴のれん部門

和食しゃぶしゃぶの「鈴のれん」部門は、2店舗の退店により、当第3四半期会計期間末店舗数は5店舗(前年同期末比2店舗減少)であります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4月16日から4店舗の休業を実施いたしました。店舗数の減少や休業が大きく影響し、売上高は3億47百万円(同52.3%減少)となりました。

### その他部門

その他部門は、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。  
売上高は80百万円(同9.8%増加)となりました。

**(2) 財政状態に関する説明**

資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (2020年3月31日現在)	当第3四半期 (2020年12月31日現在)	増 減
総資産(百万円)	38,160	43,565	5,405
純資産(百万円)	29,210	23,983	△5,226
自己資本比率(%)	76.5	55.1	-
1株当たり純資産(円)	1,144.01	939.33	△204.7

当第3四半期会計期間末の総資産は435億65百万円で前事業年度末比54億5百万円の増加となりました。主な要因は、流動資産の現金及び預金が新型コロナウイルス感染症の長期化に備え資金を借入れたことにより40億65百万円の増加となったことによるものであります。一方、負債は、195億82百万円で前事業年度末比106億31百万円の増加となりました。主な要因は、短期借入金が新型コロナウイルス感染症の長期化に備え104億80百万円増加した一方で、未払法人税等及び未払消費税が減少したことによるものであります。また、当第3四半期会計期間末の純資産は239億83百万円で前事業年度末比52億26百万円の減少となりました。主な要因は、四半期純損失49億74百万円、剰余金の配当3億82百万円であります。

以上の結果、当第3四半期会計期間末の自己資本比率は55.1%(前事業年度末は76.5%)、1株当たり純資産は939.33円(同1,144.01円)となりました。

**(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明**

通期の業績予想につきましては、本日公表しております「特別損失の計上及び繰延税金資産の取り崩し並びに2021年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,893	17,959
売掛金	780	1,769
商品及び製品	57	60
原材料及び貯蔵品	670	1,527
その他	488	1,117
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	15,890	22,432
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	5,516	5,613
土地	5,723	5,723
その他(純額)	2,171	2,029
有形固定資産合計	13,412	13,367
無形固定資産	332	280
投資その他の資産		
差入保証金	4,641	4,447
その他	3,914	3,068
貸倒引当金	△29	△29
投資その他の資産合計	8,525	7,486
固定資産合計	22,270	21,133
資産合計	38,160	43,565
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	785	1,720
短期借入金	920	11,400
未払法人税等	281	18
賞与引当金	575	207
その他の引当金	377	334
その他	2,654	2,805
流動負債合計	5,594	16,486
固定負債		
退職給付引当金	976	959
資産除去債務	1,353	1,249
その他	1,026	886
固定負債合計	3,356	3,096
負債合計	8,950	19,582
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	10,419	5,061
自己株式	△929	△929
株主資本合計	29,421	24,064
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△211	△80
評価・換算差額等合計	△211	△80
純資産合計	29,210	23,983
負債純資産合計	38,160	43,565

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	32,925	23,520
売上原価	10,307	8,346
売上総利益	22,618	15,174
販売費及び一般管理費	21,748	18,655
営業利益又は営業損失(△)	869	△3,480
営業外収益		
受取利息	16	17
受取配当金	20	19
協賛金収入	7	7
雇用調整助成金	—	499
その他	7	10
営業外収益合計	51	554
営業外費用		
支払利息	5	29
賃貸借契約解約損	0	132
その他	5	2
営業外費用合計	11	164
経常利益又は経常損失(△)	910	△3,090
特別利益		
固定資産売却益	—	1
投資有価証券売却益	20	—
特別利益合計	20	1
特別損失		
固定資産除却損	93	84
減損損失	—	541
新型コロナウイルス感染症による臨時休業損失	—	225
特別損失合計	93	852
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	837	△3,941
法人税、住民税及び事業税	190	74
法人税等調整額	175	958
法人税等合計	365	1,032
四半期純利益又は四半期純損失(△)	471	△4,974



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(株式取得による会社の買収)

当社は、2020年11月10日開催の取締役会において、株式会社大将軍の株式を取得し、当社の子会社とすることについて決議し、2020年11月20日付で株式譲渡契約を締結し、2021年1月27日付で全株式を取得し、子会社化いたしました。

1. 株式取得の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業内容

被取得企業の名称 株式会社大将軍

事業内容 飲食店経営、惣菜調理・加工・販売

(2) 株式取得の理由

当社は、「よりおいしい料理をお値打ちに真心を込めたサービスで提供し、多くの人々に外食の楽しさを感じていただく」という基本理念のもとに「よろこびの食文化」を創造し、日本一質の高い外食企業を目指しております。大将軍は、おいしさ、サービス、空間、価格、すべてに価値を感じていただける食の創造を通じてお客様からも、社員一人ひとりからも、「日本一」と呼ばれる焼肉店を目指し、千葉県を中心に「和牛・国産牛にこだわった本格焼肉」を提供する「大将軍」業態、及び「国産牛がリーズナブルにお腹一杯食べられる」がコンセプトの「くいどん」業態の2つの主要業態を展開し、お客様の支持を得ております。当社及び大将軍は、ともに飲食業界に属する中で、互いの企業理念は非常に親和性は高く、両社の双方の強みを存分に生かすことで、付加価値の高い商品・サービスが提供できるものと判断し、本件株式譲渡契約の締結に至りました。

(3) 取得した議決権比率

100%

2. 取得の対価の種類ごとの内訳

取得の対価 現金 1,800百万円

3. 主要な株式取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 34百万円

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

有形固定資産の減価償却方法の変更

当社は、従来、有形固定資産の減価償却方法について定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用しておりましたが、第1四半期会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、幅広い世代の顧客層や多様化する顧客ニーズに対応した出店戦略の再構築が求められているなか、店舗レイアウトや取り扱いメニューの刷新及び新規業態の展開、主要業態の木曾路を含む既存業態の新規出店計画の策定を契機に、店舗における有形固定資産の使用実態を調査した結果、有形固定資産は耐用年数にわたって安定的かつ継続的に使用されるものと見込まれることから、定額法により均等に費用配分を行うことが実態をより適切に反映すると判断したことによるものであります。

これにより、従来の方策による場合と比べて、当第3四半期累計期間の減価償却費は140百万円減少し、営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失がそれぞれ140百万円減少しております。

(追加情報)

当第3四半期累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い2020年4月16日から114店舗の臨時休業を実施しましたが、緊急事態宣言の解除後、休業店舗は徐々に営業を再開し2020年6月1日には全店が稼働体制になりました。また、その後の店内飲食営業の回復に向けた施策や新たに始めたテイクアウト販売の促進等により業績は回復基調にありました。しかしながら、2021年1月に再び緊急事態宣言が発出されて店舗営業時間の短縮を余儀なくされております。

このような状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は翌事業年度に及ぶものと仮定を変更し、固定資産の減損会計及び繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

その結果、当第3四半期会計期間において、固定資産の減損損失456百万円を計上し、繰延税金資産958百万円を取崩しております。

### 3. その他

#### (1) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、2020年4月7日に政府、自治体による緊急事態宣言が発出されたことにより、4月から5月上旬にかけて営業時間の短縮及び一部店舗の営業休止を実施しましたが、緊急事態宣言の解除後、休業店舗は徐々に営業を再開し2020年6月1日には全店が稼働体制になりました。また、その後の店内飲食営業の回復に向けた施策や新たに始めたテイクアウト販売の促進等により業績は回復基調にありました。しかしながら、2021年1月に再び緊急事態宣言が発出されて店舗営業時間の短縮を余儀なくされております。

このような状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の影響は翌事業年度に及ぶものと想定しております。

この影響に伴い、当事業年度に売上高が著しく減少する可能性があります。また、重要な営業損失、経常損失及び当期純損失並びにマイナスの営業キャッシュ・フローを計上する可能性があります。また、これらの影響は翌事業年度に及ぶ可能性があることから、現時点においては継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、当社は、2020年4月末日から2020年5月20日までに新規の借入を実行しており、当面の資金を確保していることから、重要な資金繰りの懸念はありません。従って、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

なお、当該事象又は状況の解消のため、各店舗において、お持ち帰り「お弁当販売」や、木曾路部門の各店舗では、ご自宅でお楽しみいただける、お持ち帰り「しゃぶしゃぶセット」・「すきやきセット」の販売を行いました。また、休業店舗の従業員の一時帰休等により人件費を抑えると共に、家賃の減額交渉及び、新規投資の抑制等、経費削減の取り組みを行っております。

#### (2) 役員の変動

##### 代表取締役の変動

代表取締役の変動につきましては、2021年1月28日公表の「代表取締役の変動(社長の交代)に関するお知らせ」をご参照ください。